

農林水産省「くだものフォーラムーくだものでつなぐ産地と消費者

くだものへの期待と 果樹農業振興基本方針

三石誠司

宮城大学食産業学部教授

2015年7月23日

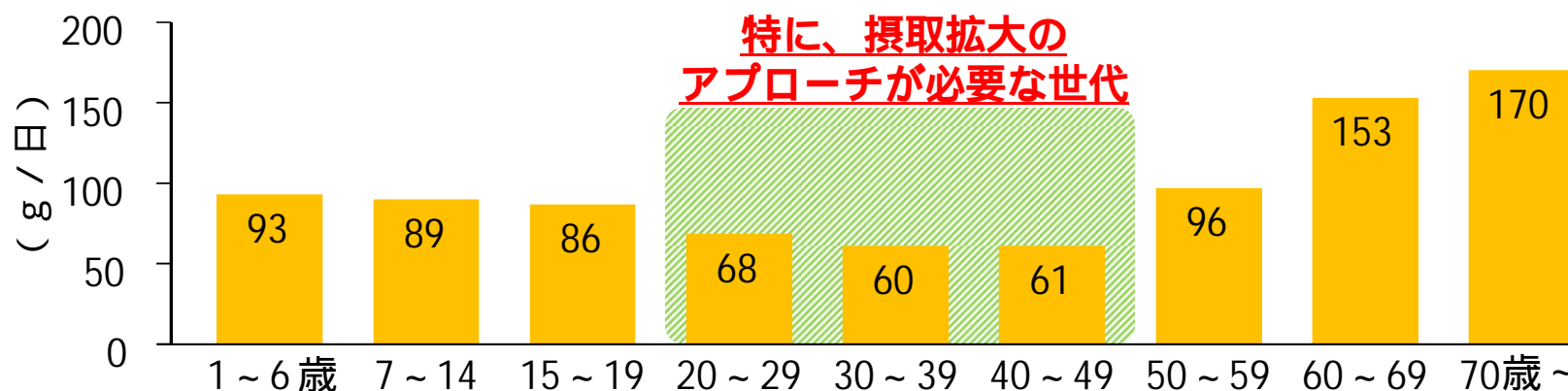
内 容

- ▶ 1 . 果樹をめぐる現状
- ▶ 2 . 果樹部会での主な論点
- ▶ 3 . 果樹農業振興基本方針のポイント
- ▶ 4 . 果樹産地と実需者への期待

1 . 果樹をめぐる現状

| | 国内生産 | 輸入 | 合計 |
|--------|----------|----------|----------|
| 果汁等加工品 | 355千トン | 3,194千トン | 3,549千トン |
| 生鮮用 | 2,599千トン | 1,766千トン | 4,365千トン |
| 合計 | 2,954千トン | 4,960千トン | 7,914千トン |

< 世代別果実摂取量 >



若者と中堅世代が食べていない!

- ▶ 2 ha以上の農家は15%、農業経営者数は約24万人で、60歳以上が7割。
- ▶ 平成26年の生鮮果実輸出額は125億円と過去10年で最高(りんごが約7割)

2 . 果樹部会（全7回：委員6名、臨時委員13名）での主な論点

基本

- 他地域・異業種を含めた多様な「連携」、内容は具体的に！

消費

• 「くだもの」をもう一度、身近なものに！

- 種類、機能、表示制度、情報提供、食育・・・

生産

- 次世代への承継対策（経営モデルとキャリア・プラン提示）、園地集積・規模拡大、果樹共済等のセーフティ・ネット対策、人的確保対策、新品種の導入と新技術の開発・普及、流通・消費事情に適合した需給調整対策・・・

流通

- 強固なバリューチェーン構築、小売業者との「連携」、加工業務用果実の姿の明確化、品目や地域の特徴、輸出拡大への取組み、情報収集と共有、輸出企業や商社との「連携」・・・

3 . 新たな果樹農業振興基本方針のポイント

▶ 基本的な考え方

所得向上に向けた好循環
産地間・異業種を含めた
「連携」

▶ 消費

消費構造の変化に対応し
たサプライ・チェーンの構築
機能性・原産地表示制
度等の活用

▶ 生産

優良品目・品種へ転換加速
新技術の導入、開発、普及
園地集積・大規模化
経営モデルとキャリア展望

▶ 輸出

「ジャパン・ブランド」の確立

▶ 流通・加工

バリューチェーンの構築

4 . 果樹の生産と消費：くだものの消費拡大と、果樹農家の所得向上、産地の維持・発展

- ▶ 将来を見据えたインフラへの先行投資を！
- ▶ 既存の産地を守りつつ、グローバルな環境変化に対応した準備を！
- ▶ 次世代を大きくとらえ、個人・家族ベースの承継から、組織・地域・そしてバリューチェーン全体での後継者の育成を！



日本の果樹と果樹生産者の潜在力を
バリューチェーン全体で最大に発揮させていきましょう！

ご清聴ありがとうございました。

果樹農業振興基本方針

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/pdf/kajyu427.pdf>